

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ②書くこと
概ね良好な結果であった
- ③読むこと
良好な結果であった
- ④言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった
- ②短答式
大変良好な結果であった
- ③記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・言語事項の漢字の読みの正答率が高い。
- ・故事成語の使い方の設問が、若干正答率が下がる。
- ・各設問とも無解答率は、低い。

国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ②書くこと
概ね良好な結果であった
- ③読むこと
概ね良好な結果であった
- ④言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった
- ②短答式
概ね良好な結果であった
- ③記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・選択式問題の正答率は、高い。
- ・条件のついた記述式の正答率は、低い。
- ・各設問とも無解答率は、低い。

分析

- ・基本的に言語事項が良くできている。
- ・A問題に比べてB問題の正答率が低い、無解答率は、意欲的である。
- ・自分の考えを要点を押さえて記述することが苦手なので、情報整理能力を付けさせていく必要がある。
- ・授業で、文章にして話す力、作文にして書く力、プレゼンなど表現する力、要点を簡潔にまとめる力を付ける必要がある。

○●算数・数学●○

算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

(該当の問題なし)

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・数と計算領域の 2 桁と 2 桁の加法の正答率が96%と最も高い。

・図形領域のコンパスを使った書き方の正答率が最も低い。

・無解答率は、低い。

算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・数と計算領域の乗法の正答率が98%と高い。

・言葉と数を使つての記述式の正答率が33%と低い。

・無解答率は、低い。

分析

・A 問題に比べて B 問題の正答率が低い。

・問題解決型学習を進めている結果、無解答率は低く、問題に対して意欲的である

・B 問題では、読み取りながら情報を整理して考えていく力に課題が見られる。

・文章を文末まで読みきる力や情報整理能力をつけていく必要があると考える。

・身近な生活に密着した問題を日頃の学習の中にも取り入れて、数学的な思考力を付けていくことをさせていく必要があると考える。

・算数の道具の目的や意義を理解させる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・ 全般的に良くできている。
- ・ 国語は、年度により少し変化が見られるが、伝統的な言語文化による(ことわざや故事成語等)問題には、ムラがしやすい。

学力高位層と学力低位層についての分析

- ・ 学力低位層は少なく、若干中間層が増えているが大きな変化は見られない。
- ・ 学力高位層が殆どだが、右肩上がりとは言えず、改善の必要がある。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

- ・ 学力低位層をなくすための手立てを考えていく。
ユニバーサルデザインに基づいた「わかりやすい授業」を進める。
- ・ 基礎基本の徹底を図っていく。
- ・ 物語の登場人物の相互関係を捉えながら読む力を伸ばす。
- ・ 問題解決型学習を続けていく。
学習の目当てをはっきりさせ、自分の考えを持って解決していく授業展開を進める。
- ・ 問題を解決する時に立てた見通しへの振り返りをし、結果が正しいことを条件をもとに振り返って考えるようにさせる。
- ・ プレゼンテーションを取り入れた学習を考えていく。

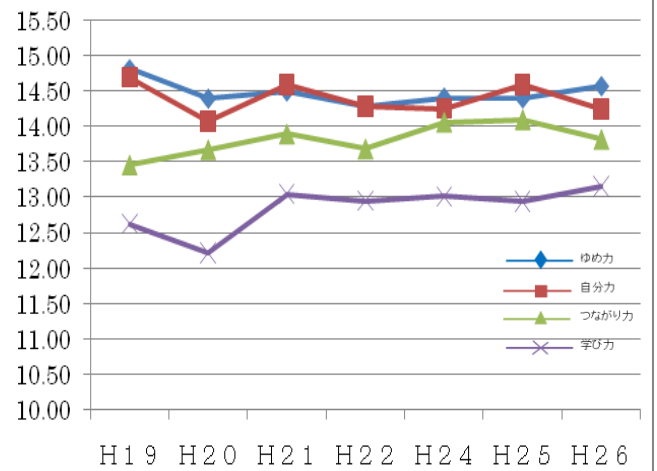
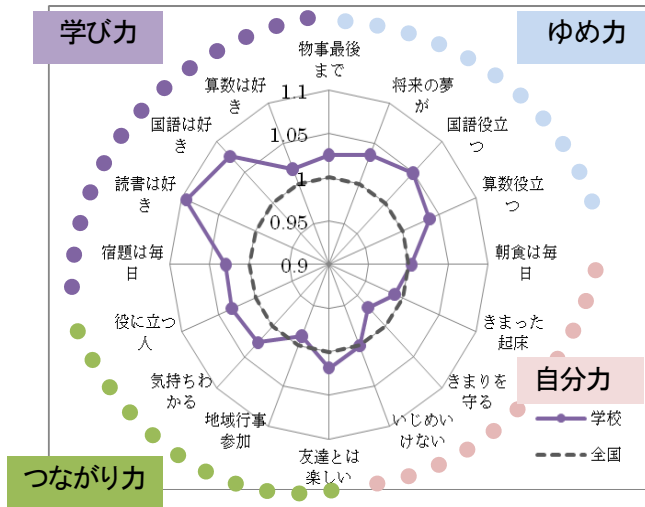
学習したことを自分の言葉でまとめ、表現方法を工夫し、分かり易く伝える能力を育成していく。

- ・ 情報処理能力を付けていく。
新聞を読む習慣などの呼びかけができればと思う。
- ・ 情報を必要に応じて取捨選択し、根拠となる情報を提示した上で、説明していく表現力を身に付けさせる。
- ・ 聞き手を意識した、話し方のスキルを身に付けさせていく。(低、中、高学年として学校で統一性を持たす)

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

これまでの推移



分析

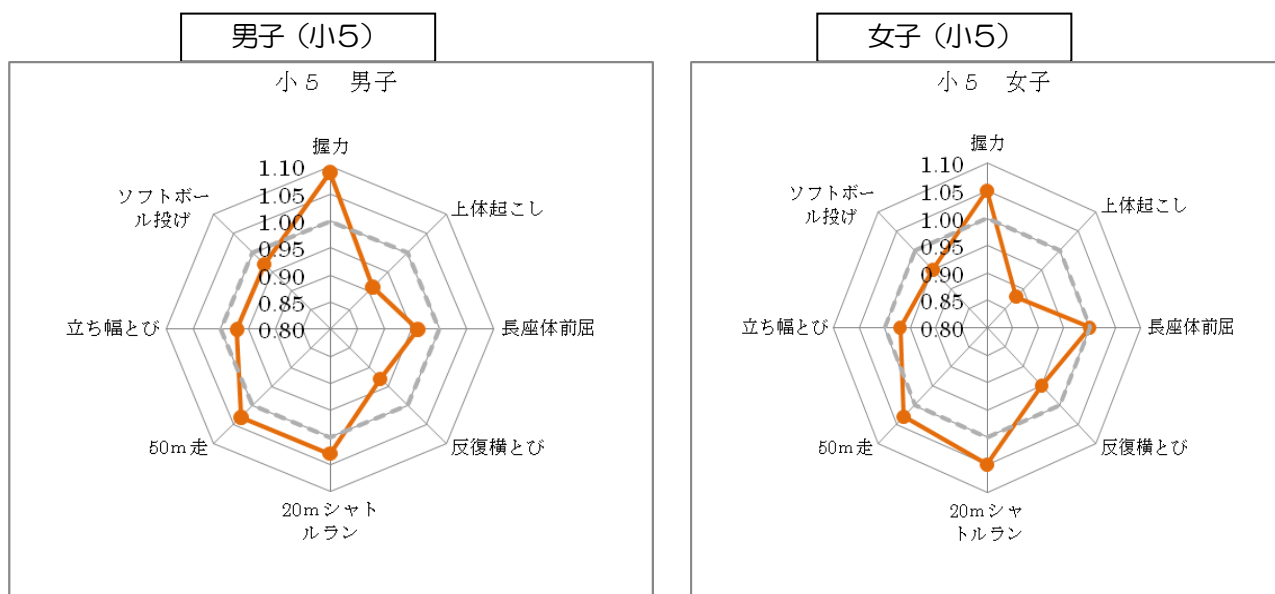
- ・「読書は好き」の児童が多い。読書ノートの取り組みや読み聞かせの効果があると考えられる。
- ・「きまりを守る」が低い。
- ・完璧でないと自分を肯定しにくい児童も多い。
- ・「地域行事参加」が低い。新興の住宅地なので地域行事が少ない事と子ども達自身が習い事などで忙しくて参加できないこともあるようだ。
- ・国語や算数が役に立つと答えている児童が多い。ただし、算数について好きと答える児童が少ない。
- ・将来の夢を持ったり最後まであきらめずに頑張ったりする意欲が高い。

取り組み

- ・友だちへ関わっていくことや思いを伝えることが弱いので勉強が出来れば良いという価値観からの脱却を低学年から育てていきたい。
- ・ルールは「守られている」のではなく、意味理解をさせた上で、自ら必要と感じ「守る」子にしたい、「やらされている」のではなく自ら取り組もうとする姿勢を育てていきたい。
- ・算数嫌いを作らないよう授業改善を行い学校力を上げていきたい。
- ・指示待ちではなく、「自分たちで考えて動ける子ども」を育てていきたい。
- ・人権の取り組みで、いじめは何があっても許さないという自覚を高め、友だちとのつながり力を育てていきたい。
- ・授業力の向上から、探究心を養い学び力を育てていきたい。
- ・研修会に積極的に参加し共有していく。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○



分析

- ・50m 走やシャトルランなど、「走」に関する分野の記録は、他の記録に比べてよい。
- ・ソフトボール投げの記録が低い。
- ・跳ぶ、投げる、長座体前屈等柔軟性の記録がよくない。
- ・体力測定の方法に慣れていないため緊張がおおきかった。

取り組み

- ・授業の中で多様な動きをたくさん経験させる。
- ・体づくり運動は特に低学年から重点的に行う。
- ・「耐寒マラソン週間」「なわとび朝会」を続けていく。
- ・学校として、児童の実態を考慮し体力向上のための体育科学習のカリキュラム作成。
- ・領域ごとに、各学年の目標を決め、目標達成率を出し、効果の検証を図る。
- ・目標達成できなかった児童へのプランを思考していく。
- ・日常生活や、遊びの中での体づくりを提案していく。

2

3年間の計画

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	自ら学び考え、生き生きと活動する子	運動をすることが好きな児童を全国平均より増加させる	
平成26年度	・国語科学習を中心として、確かな学力をつけ、コミュニケーション力を育てる。 (1) 確かな学力の育成 ＊「基礎基本の定着」(習熟の時間の充実・家庭との連携) ＊「応用力の向上」(国語科・算数科における授業改善) ＊「表現力の育成」を柱として研究を進めるとともに、目標を達成するための校内システムの充実 (2) 英語活動 ＊国際コミュニケーション能力の基礎を培う (3) 小中連携の活性化	(1) 学校として体育科学習のカリキュラムを作成する。 (2) 授業力の向上 ＊「あたらしい体育」の内容に沿った授業を行う。 ＊授業中の運動量の確保 ＊1時間の「めあて」の提示 ＊多様な動きを経験させる (3) 茨木っ子運動を取り入れる (4) 運動習慣を確立させるための取り組み ＊耐寒マラソン週間 ＊なわとび (5) 生活習慣や食習慣を確立するための取り組み	「見合う・知り合う」 ◎彩都西中学校で合同授業研 11月20日(木) 6限 2:40～3:30 1年 公開授業 授業後 5グループ討議 ◎他校の校内研修への参加
平成27年度	・国語科学習を中心として、確かな学力をつけ、コミュニケーション力を育てる。 (1) 確かな学力の育成 ＊「基礎基本の定着」 ＊「応用力の向上」 ＊「表現力・情報処理能力の育成」 (2) 英語活動 (3) 小中連携の活性化	(1) 学校として作成したカリキュラムに沿って授業を行う。 (2) 授業力の向上 (3) 茨木っ子運動に取り組む (4) 運動習慣を確立させるための取り組み (5) 生活習慣や食習慣を確立するための取り組み	「目標と共通実践の決定」 ◎小学校 2校での合同授業研(2回) [予定] 6月24日(水) 彩都西小学校 11月25日(水) 清溪小学校 ・連携する内容別の分科会の開催 ・授業内容の交流 9年間を見通したカリキュラム検討。
平成28年度	・国語科学習を中心として、確かな学力をつけ、コミュニケーション力を育てる。 (1) 確かな学力の育成 ＊「基礎基本の定着」 ＊「応用力の向上」 ＊「表現力・情報処理能力の育成」 (2) 英語活動 (3) 小中連携の活性化	(1) 学校として作成したカリキュラムに沿って授業を行う。 (2) 授業力の向上 (3) 茨木っ子運動に取り組む (4) 運動習慣を確立させるための取り組み (5) 生活習慣や食習慣を確立するための取り組み	「実践」 ◎中学校区全校各1回ずつ合同授業研 ◎小中での連携事項を意識した授業実践 ◎めざす子ども像についてのブロック合同研修会(夏休み中 8月後半予定) ◎9年間の連携カリキュラム作成

*各年度末総括により、内容修正もあり得る。